

患者さんを全面的にサポートするため

# 服薬指導支援ツールとして 多角的に服薬状況をチェック

兵庫県加西市で展開するトップ調剤薬局では収納の問題などから紙薬歴の保管が困難になってきたため、2012年10月、パナソニックヘルスケア(株)の保険薬局用電子薬歴システム「Pharnes II-MX」を導入した。「導入に当たっては不安もあったが、実際に導入してみると、使い勝手が良く、記入ミスの軽減、待ち時間の短縮、服薬指導の充実など、さまざまなメリットがあった」と、「Pharnes II-MX」を高く評価している。

兵庫県中部の加西市に、丸山さんがトップ調剤薬局を開局したのは1994年。隣接する医院(診療科目:外科、胃腸科、内科など)の開設にあわせたものだった。「当時は内科や小児科などのクリニックが少なく、地域の皆さんが同医院の開業を待ちわびていたように受診されたため、薬局業務も多忙を極めていました」と丸山さんは振り返る。

また当時は院外調剤という言葉が普及しておらず、服薬指導や投薬に際しては、その説明から始めなければならなかったようだ。いまでは、調剤薬局も増えてきたことで、処方せん応需の環境はほぼ充足しつつあるとのこと。1日当たりの処方せん応需数は約100枚で、高齢の患者さんが増えているが、家族ぐるみで来局することが多いという。

開局時のポリシーは、「服薬指導主体の調剤薬局であること」。その信念は、いまも変わらない。「薬物相互作用などをチェックし、規格違いなどの調剤ミスを起こさないようにするのは大前提ですが、調剤することだけに満足しては、薬剤師の存在意義は薄れてきます。服薬指導こそが薬剤師の仕事だと思うのです」

そう語る丸山さんが、近年悩んでいたのが紙薬歴の存在だった。保管棚



トップ調剤薬局  
代表、管理薬剤師  
丸山 幸子 先生

はどんどん増え、数が多くなったことで出し入れに時間がかかり、収納場所

を間違えケースも生じていたからだ。そこで、電子薬歴導入を決断したが、懸念がないわけではなかった。工夫を凝らしていた紙薬歴に蓄積された患者情報を電子薬歴に反映させることができるかどうか。この懸念を払拭したのが、「Pharnes II-MX」だったという。

### 導入で実感した さまざまなメリット

「メディコムの販売代理店さんには、2012年10月の『Pharnes II-MX』導入以降、迅速にサポートしてもらっており、「顔の見える対応」と評価できるとしています。また、薬歴画面は、既往歴や他科受診など、患者さん個々の情報がひと目でわかるように工夫されています。処方監査により疑義照会

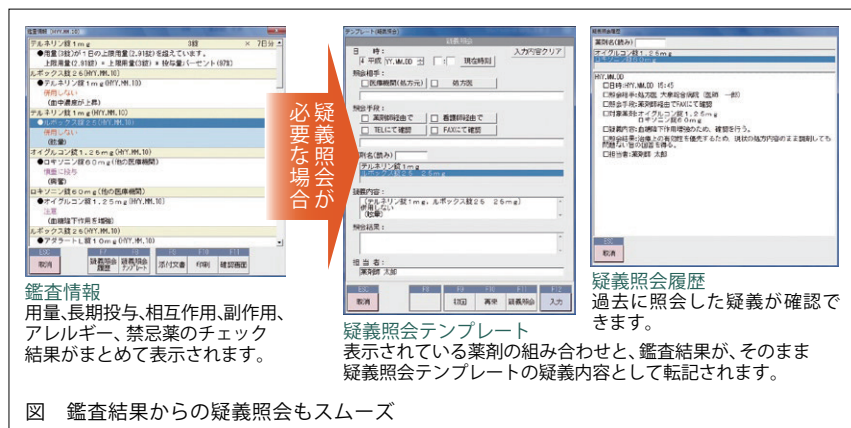


図 鑑査結果からの疑義照会もスムーズ

を行う場合、その結果を薬歴に記載する必要がありますが、そうした記載がないかと不安を感じていたのですが、それは杞憂に終わりました」

丸山さんが指摘するように、「Pharnes II-MX」は監査結果を簡単に「疑義照会テンプレート」に反映でき、そのまま薬歴として記載できるようになっている(図)。また、過去の疑義照会履歴を参照できるため、再度疑義照会することを防ぎ、医療機関とのより良いコミュニケーションに役立てることが可能だ。

そのほかに、「Pharnes II-MX」導入のメリットとして、丸山さんは次の点を挙げる。

▼過去処方と今回処方の比較画面が非常にわかりやすい。紙薬歴では見落としがちだった細かな違い(規格や用量の変更など)にも気づくことができ、その違いを患者さんに的確に伝えることができる。

▼「患者検索」が素早くできる。患者一覧画面を使うと、名前と顔を覚えやすい。

▼レセコン入力が反映されるので、規格、剤形の記入ミスが起こりにくい。

▼紙薬歴の「出す・記入する・片付ける」の手間が省け、時間が短縮した。

▼いつでも、すぐに見ることが可能。

▼初回/再来テンプレートが便利。新規来局時のアンケートから、再来の確認事項まで、薬歴に記載が必要な事項をみれなく記録することができる。

▼紛失することがない。

▼医療機関と連携し、処方せん内容を2次元コード入力することで、事務作業が大幅に軽減した(写真)。

「紙薬歴だと、この情報は不要だと自己判断して書かないでいたことが

あったと思います。しかし、それを記入しておけば、きめ細かい服薬指導につながっていたかもしれません。『Pharnes II-MX』だと記入が楽なので、もれなく記載しようという気持ちにさせてくれるのです。そして、それらの情報をもとに、いろいろな角度から患者さんの体の状態や服薬状況をチェックでき、新たな発見に結びつく——。『Pharnes II-MX』はこうしたことを可能にする有用なツールと位置づけることができます」

丸山さんはこう話すとともに、電子薬歴の導入を検討している調剤薬局に対し、「Pharnes II-MX」を選択肢に加えてはどうか、とアドバイスする。「とにかく、まず一度『Pharnes II-MX』を使ってみたいと思います。使ってみないと、その良さはわからないのではないのでしょうか」

単に、紙薬歴で必要だったスペースを削減するという役割だけでなく、レセコンと電子薬歴を一体化させた「Pharnes II-MX」を、服薬指導の支援ツールとして大いに利用すべきだ、と丸山さんは強調する。

### 患者さんをサポートするために 「Pharnes II-MX」を活かす

丸山さんは、調剤薬局は何をすべきかを常に自問自答することが必要だという。

「病気を抱えている患者さんは、不安な状態になっており、さまざまなストレスにさらされています。このことは、生活面を含めて、全体的なサポー



写真:2次元コード入力で迅速にミスなく患者情報を入力できます

トが必要だということを意味しています。薬局にできることは限られているかもしれませんが、しかし、患者さんは悩みを吐き出すことだけでも気が楽になると感じています。ですから、当薬局では患者さんにこう話しているのです。『嫌なことはすべて薬局で落として帰ってください』と」

「Pharnes II-MX」を利用することで生まれた時間と精神的余裕を、患者さんのサポートに活かしていく——。そう考える丸山さんは、運営する他の店舗でも「Pharnes II-MX」を活用し患者さん本位の調剤を行っている。

トップ調剤薬局  
兵庫県加西市北条町古坂6-14



【職員】常勤薬剤師2名、  
パート薬剤師4名、  
医療事務3名

